

## § 3.4 SCE・Net のあり方

小林 浩之（幹事）

LWWCの教育講座の講師として SCE・Net に呼び込まれて早いもので7年になる。あらためて言うまでもないが、この会の典型的な属性は生まれも育ちを違う優秀な人達の加齢化集団ということである。そのようなシニアの集まりという難しさを乗り越えて組織を設立し、運営をされてきた諸先輩に敬意をまず表したい。

SCE・Net に対して今期待していることは、創立の志をより大きく実現すること、活動を通じて、所謂自らの加齢臭を含めて払拭することである。10年経った今、初心に戻ることが必要であり、期待の実現のためにいくつか提言したい。

### すなわち、

- 1) おもてに掲げる SCE・Net の組織目標をもっと強く実現すること。  
豊かな知識と技術基盤にして化学工学会を通して、社会貢献に寄与するとともに、自己実現を果たすことであることであるが、もっと積極的になってよい。  
すなわち、外に向かった発信志向が弱いので、これを強めることである。
- 2) それらの活動を通じて、このようなシニアの集団にありがちな負の属性を互いに克服することである。活動に参加して、自分自身含めて感じる負の属性は、過去の価値観にこだわること、経験の乏しいところにもひとかどの知識をひらけかすこと、うちに籠ること、などである。これらを払拭するための努力や活発さがたりないと感じる。

### これらを解決するために、

1. 活動の母体として研究会や交流会が既にあり一定の成果をあげていると思うが、その運営を改革や強化することである。研究会については時として、内に籠って自己満足にとどまりがちになる。知識については今更新しさを求めることもないが、考え方は決して既成概念にとらわれることなく清新な考え方に磨き上げる研鑽、訓練の場としたいし、アウトプットをどう外での成果とするかという外向きの志向を強くしたい。  
研究会などは、会長はともかく世話役は最も若い人にやらせれば良いし、  
又、SCE・Net の会員はOBであることは必要なく、化学工学会員のたとえば50歳以上の人にも入会の権利を与え、参加してもらうことも考えたら良い。加えて現状は、企業人OBがSCE-Net 会員資格となっているが、学や官のOBにも参加願  
い、名実とも産学官の組織にすることも考えたらよいと思う。
2. 外部業務を強化する営業的なグループの拡充することである。
3. 組織として化学工学会部会と交差的交流をする。
4. 研究テーマはネット上だけでなく学会発表を含めた対外発表を直にやる。
5. 地道に外に出て活動をやる。一部はやられていると思うが外部団体との協業も積極

的に考える。

6. シンクタンク機能を組織的に行う。
7. 会員間の親睦は限られた範囲でしか実現できてはいないが、もっとプロモーターを増やす。
8. 3項や4項に関連するがシニアだけのグループ活動でなく、シニアをシニアとして生かす組織または活動形態とする。

私もこのような目標の実現に、微力でも努力をしたい。